

第2章 小田原市の文化財の概要と特徴

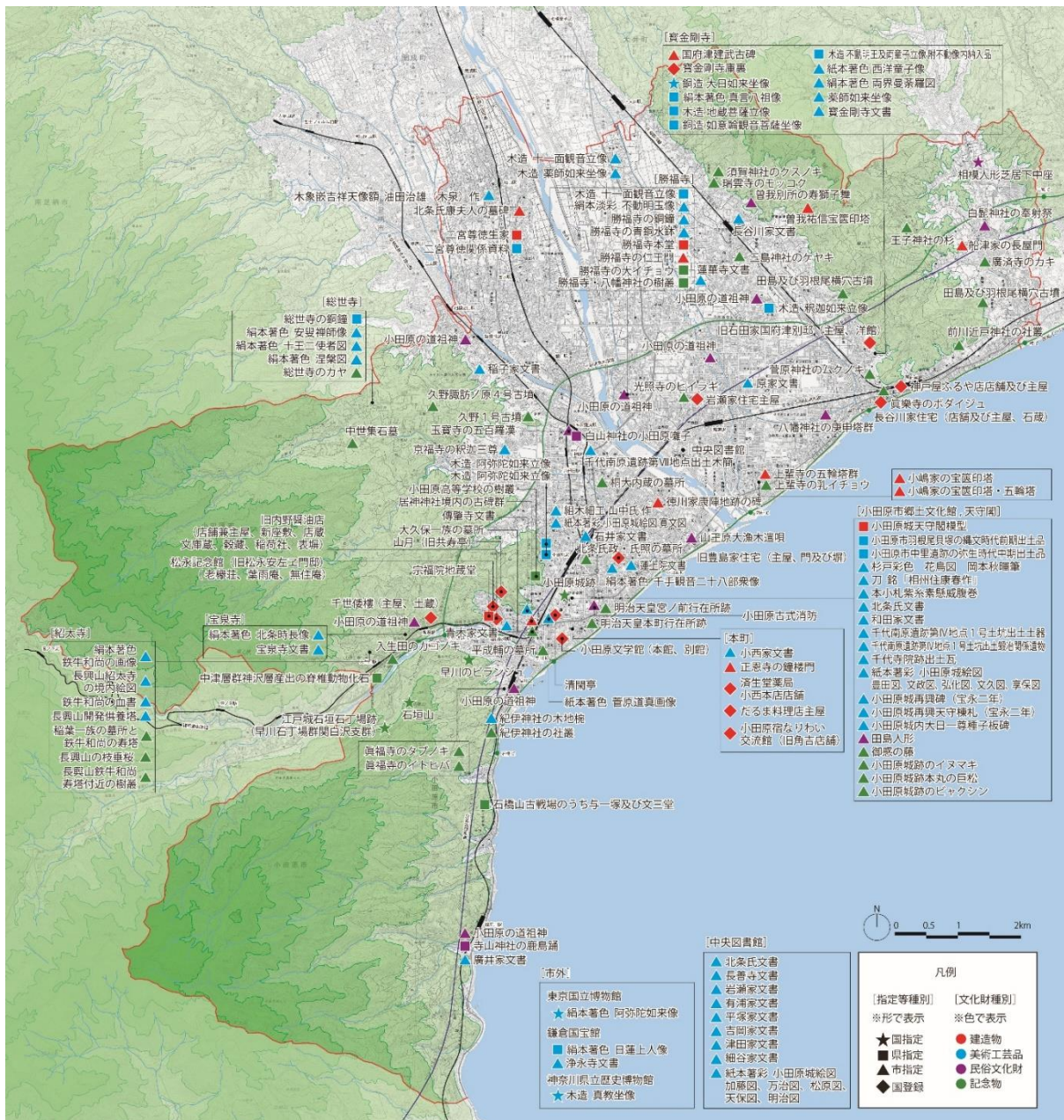
1 文化財の概要

(1) 指定等文化財

本市には、152件の国・県・市の指定文化財のほか、29件の国登録有形文化財（建造物）があります。文化財の保存技術の選定はありません。

指定等文化財の件数一覧（令和7年（2025）8月末現在）

類 型		国指定 ・選定	国選択	県指定	市指定	国登録	合計	
有形 文化財	建造物	0	－	5	11	29	45	
	美術 工芸 品	絵画	1	－	2	11	0	14
		彫刻	2	－	7	4	0	13
		工芸品	0	－	1	7	0	8
		書跡・典籍	0	－	0	0	0	0
		古文書	0	－	0	25	0	25
		考古資料	0	－	2	4	0	6
		歴史資料	0	－	1	17	0	18
無形文化財		0	0	0	0	0	0	
民俗 文化財	有形の民俗文化財	0	－	0	4	0	4	
	無形の民俗文化財	1	0	2	4	0	7	
記念物	遺跡	3	－	1	11	0	15	
	名勝地	0	－	0	0	0	0	
	動物・植物・地質鉱物	1	－	4	21	0	26	
文化的景観		0	－	－	－	－	0	
伝統的建造物群		0	－	－	－	－	0	
合 計		8	0	25	119	29	181	
								152



指定等文化財の分布図
(指定等文化財の一覧は資料編を参照)

第2章 小田原市の文化財の概要と特徴

(2) 関連制度

①小田原ゆかりの優れた建造物

小田原ゆかりの優れた建造物制度は、小田原市内にある建築技術や意匠等の優れた、著名人にゆかりのある建造物の保存及び活用を図ることにより、個性的で魅力的な、うるおいのあるまちづくりの創造に資することを目的として、平成6年(1994)に現在の文化財課が制度を定めました。現在、4件の建造物を認定しています。

	名称	所在地	認定日	備考
1	諸戸邸	国府津 5-8-4	平成 7.6.19	
2	静山荘	南町 3-1-20	平成 7.6.19	
3	岩瀬邸	鴨宮 692	平成 7.6.19	国登録
4	山月(旧共寿亭)	板橋 870-1	平成 8.8.30	国登録

②日本遺産「旅人たちの足跡残る悠久の石畳道―箱根八里で巡る遥かな江戸の旅路―」

箱根八里とは、小田原宿から箱根宿までの4里(約16キロ)と箱根宿から三島宿までの4里を合わせた東海道の旅路を指します。江戸時代に整備された五街道の中でも屈指の通行量を誇る東海道は、参勤交代の西国大名や江戸参府のオランダ商館長、朝鮮通信使や長崎奉行など、著名な歴史上の人物が数多く往来したことから、道中には様々な旅人のエピソードが残っています。また風光明媚な場所や名所旧跡が多く、浮世絵や和歌、俳句などの題材にもしばしば取り上げられています。小田原市、箱根町、静岡県三島市、函南町に跨る、この歴史ある旅路が平成30年(2018)5月24日に日本遺産として認定されました。

小田原宿は箱根八里の東の起点であり、江戸を発った旅人が初めて目にする城下町で、箱根越えを控え、にぎわいをみせていました。小田原城跡(国史跡)は、復興された天守閣や城門などの白壁、石垣、水堀の景観が城下町時代の名残りを伝えます。かまぼこ通りは、相模湾で揚がる鮮魚を加工した蒲鉾の販路を周辺の温泉宿などへ拡大し、小田原の名物に育てあげた老舗群を中心に、落ち着いた商家の佇まいを留めています。歌舞伎の外郎売りで知られた老舗のういろは戦国時代から続く薬種商で、薬を販売するかたわら、甘い菓子のういろを代々小田原で作り続けており、これらが小田原宿を象徴する構成文化財となっています。

市内の「箱根八里」構成文化財

	名称	指定等の状況
1	江戸口見附	国指定記念物(遺跡)
2	北條稲荷	未指定(記念物(遺跡))
3	松原神社	未指定(有形文化財(建造物))
4	清水金左衛門本陣(明治天皇宮ノ前行在所跡)	市指定記念物(遺跡)
5	片岡本陣(明治天皇本町行在所跡)	市指定記念物(遺跡)
6	小田原城跡	国指定記念物(遺跡)
7	小田原提灯	未指定(民俗文化財(有形の民俗文化財))
8	かまぼこ通り	未指定(文化的景観)
9	小田原蒲鉾	未指定(民俗文化財(無形の民俗文化財))
10	小西薬局	国登録有形文化財(建造物)
11	ういろ	未指定(民俗文化財(無形の民俗文化財))
12	小田原梅干し	未指定(民俗文化財(無形の民俗文化財))
13	小田原用水	未指定(記念物(遺跡))

③箱根ジオパーク

ジオパークとは、「地球・大地（ジオ：Geo）」と「公園（パーク：Park）」とを組み合わせた言葉で、「大地の公園」を意味し、地球（ジオ）を学び、丸ごと楽しむことができる場所をいいます。2004年にユネスコの支援により設立された世界ジオパークネットワークにより、世界各国で推進されています。

箱根ジオパークは、箱根火山を中心とした神奈川県西部の2市3町（小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町、南足柄市）の区域で構成され、平成24年（2012）に日本ジオパーク委員会より日本ジオパークとして認定されています。

箱根火山のふもとに広がるこれら2市3町は、首都圏からわずか90kmにもかかわらず、豊かで美しい四季に彩られ、古くから地域文化・産業が栄えてきた地域です。

ジオパークにおいて、地質、地形、自然、歴史、文化など、そのジオパークを特色づける見学場所のことをジオサイトと呼び、本市では「小田原エリア」として7箇所が選定されています。

小田原エリアのジオサイト

- ・早川石丁場群
- ・小田原城と小田原用水
- ・石垣山一夜城
- ・根府川（片浦海岸）
- ・荻窪用水
- ・羽根尾貝塚
- ・六本松跡

④100年フード

100年フードとは、多様な食文化の継承・振興への機運を醸成するため、地域で世代を超えて受け継がれてきた食文化を継承していくことを目指す文化庁の制度で、本市では2件が認定されています。

小田原の認定食文化

- ・小田原蒲鉾
- ・曾我の梅干し

⑤日本100名城、続日本100名城

日本を代表する文化遺産であり地域の歴史的シンボルでもある城郭、城跡を、多くの人に知ってもらい、関心を高め、地域文化の振興につなげるため、公益財団法人日本城郭協会が設定した制度です。本市では2件が選定されています。

小田原の選定城郭・城跡

- ・小田原城（日本100名城）
- ・石垣山城（続日本100名城）

第2章 小田原市の文化財の概要と特徴

(3) 未指定文化財

本計画の作成にあたり、既存の文献や調査、市民アンケートをもとに、未指定文化財として2,400件をリスト化しました。類型ごとの件数は下記のとおりです。

未指定文化財の件数一覧（令和7年（2025）8月末現在）

類型		内容	合計	
有形文化財	建造物		132	
	美術工芸品	絵画	118	654
		彫刻	79	
		工芸品	82	
		書跡・典籍	60	
		古文書	84	
		考古資料	24	
		歴史資料	207	
無形文化財		16		
民俗文化財	有形の民俗文化財	1,281	1,345	
	無形の民俗文化財	64		
記念物	遺跡	186	232	
	名勝地	31		
	動物・植物・地質鉱物	15		
文化的景観		17		
伝統的建造物群		4		
合 計			2,400	

2 文化財の特徴

(1) 有形文化財

① 建造物

市域には160を超える寺院が存在し、江戸時代以前の建築物も数多く残っています。

勝福寺本堂（県指定）は、宝永3年（1706）に小田原藩主大久保忠増により建立されました。全体に中世以来の密教本堂を継承しつつ、彫刻欄間などに江戸時代中期の賑やかさをみせ、県西南部の近世寺院の特色を示した建物とされています。勝福寺仁王門（市指定）は、宝暦8年（1758）に建立されたもので、八脚門としては県下でも最大級で、格調の高い門です。

宗福院地藏堂（県指定）は、小田原藩主大久保忠増が創立した慈眼寺に、創立当時に建てられた仏殿と考えられており、県下唯一の江戸時代中期の黄檗宗仏殿です。また、大久保忠世が小田原城主となった後、当地に移された正恩寺の鐘楼門（市指定）は、寛政5年（1793）に小田原の大工により建てられました。

農家の建造物は、農村の暮らしを現在に伝えます。

二宮尊徳生家（県指定）は、二宮尊徳の祖父銀右衛門により建てられたと考えられており、柳新田に移築されていたものを昭和35年（1960）に尊徳生誕の場所である現在地に移築・復原したものです。18世紀中頃の建設と考えられており、江戸時代中流農家の典型例です。戦国時代から名主を務めた船津家の長屋門（市指定）は文政12年（1829）に建設されたもので、小田原地方の上級農家の長屋門として貴重なものです。その他、岩瀬家住宅主屋（国登録）、静山荘（旧望月軍四郎別邸）（小田原ゆかりの優れた建造物）などがあります。

明治中期以降、市内には多くの政界・財界の名士の別荘が設けられました。小田原文学館（旧田中光顕別邸）本館・別館（国登録）、山月（旧共寿亭・大倉喜八郎別邸）（国登録）、松永記念館老櫓荘・葉雨庵・無住庵（国登録）、清閑亭（旧黒田長成別邸）（国登録）などの建造物は、往時の歴史を現在に伝えるとともに、近代の別邸建築の特徴を良く示しています。



清閑亭（旧黒田長成別邸）

近世以降の東海道及び宿場町のにぎわいを伝える建造物として、小田原宿なりわい交流館（旧角吉店舗）（国登録）、だるま料理店主屋（国登録）、済生堂薬局小西本店店舗（国登録）、旧内野醤油店（国登録）などがあります。

また、国府津の近代の町並みを代表する建造物として、長谷川家住宅（国登録）、神戸屋ふるや店（国登録）などがあります。

宝篋印塔、五輪塔、板碑などの石造物も市内に多く所在しています。根府川石（安山岩）や箱根火山カルデラ内の安山岩などが用いられています。

曾我祐信宝篋印塔（市指定）は関東様式と呼ばれる特徴を備えた宝篋印塔です。大見寺には、市内最古で徳治3年（1308）の銘を持つ宝篋印塔（市指定）、天文21年（1552）銘宝篋印塔、天正2年（1574）銘の宝塔が残り、善栄寺には、北条氏康夫人の墓碑（市指定）があり

第2章 小田原市の文化財の概要と特徴

ます。その他、上輩寺の五輪塔群（市指定）、いずれも14世紀に造られた居神神社の古碑群（市指定）、国府津の建武銘板碑（市指定）などがあります。

異色の建造物として、小田原城天守模型2基（東大模型・大久保神社模型）（県指定）があります。いずれも江戸時代に造られたものとされ、明治3年（1870）に取り壊される前の天守の姿を知ることができる点で貴重です。

未指定の文化財として、小田原城下町や東海道宿場町の繁栄を伝える近世以降の歴史的建造物、三淵邸・甘柑荘などの近代に別邸として建設された建築物、小田原用水などの水利に関する土木構造物等などがあります。

②美術工芸品

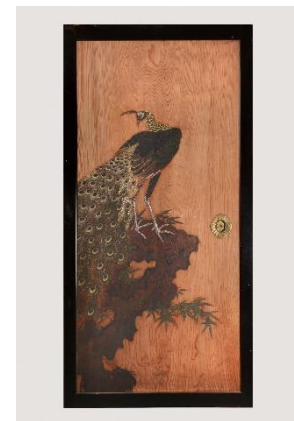
○絵画

仏教絵画が多く指定されています。

報身寺の阿弥陀如来像（国指定）は、鎌倉時代後期の制作とされ、市内最古の仏画です。寶金剛寺の真言八祖像（県指定）は、南北朝時代の制作とされ、八祖像の完備したものは神奈川県下でも珍しく貴重です。浄永寺の日蓮上人像（県指定）は、制作年代は桃山時代とされ、開基の風祭大野之亮入道秀光が日蓮上人から授与されたものと伝えられます。その他、寶金剛寺の両界曼荼羅図、総世寺の安叟禅師像、紹太寺の鉄牛和尚像、本源寺の千手観音二十八部衆像、勝福寺の不動明王像が市指定文化財となっています。

寶金剛寺の西洋童子像（市指定）は和紙に岩絵の具で描かれており、桃山時代から江戸時代初期に流行した初期洋風絵画です。また、花鳥図 岡本秋暉筆（市指定）は、小田原城二の丸にあった藩主屋形の正面玄関にはめられていたと伝えられています。

未指定の文化財として、宝金剛寺の不動明王像、総世寺の仲安真康筆伝十三仏図などがあります。



花鳥図 岡本秋暉筆

○彫刻

市内には平安時代、鎌倉時代の仏像が相当数伝来しています。

寶金剛寺の大日如来坐像（国指定）は、平安時代後期の造立であり、銅造の大日如来像としては国内最古作と考えられています。その他にも、平安時代の仏像として、10世紀の様式を示す寶金剛寺の地藏菩薩立像（県指定）、寶金剛寺の如意輪観音菩薩坐像（県指定）、勝福寺の十一面観音立像（県指定）、京福寺の釈迦三尊像（市指定）、寶金剛寺の薬師如来坐像（市指定）、泉蔵院の十一面観音立像（市指定）、泉蔵院の薬師如来坐像（市指定）などがあり、仏教が地方に広まる様相を現在に伝えます。



寶金剛寺の大日如来坐像

蓮台寺の真教上人坐像（国指定）は文保2年（1318）、時宗の

遊行二祖他阿真た あしんきょう教の生前に造立された寿像です。中世の仏像として、鎌倉時代後期の造立である寶金剛寺の不動明王及両童子立像（県指定）、本誓寺の阿弥陀如来立像（県指定）、東学寺の釈迦如来立像（県指定）などがあります。

未指定の文化財として、勝福寺の銅造十一面観音坐像、蓮台寺の木像阿弥陀三尊像などがあります。

○工芸品

総世寺の銅鐘（県指定）は応永15年（1408）に鑄造されたもので、小田原合戦の際に、久野に布陣した豊臣秀次が陣鐘を総世寺に寄進したと伝えられています。

その他に、伝統工芸の技術を現在に伝える文化財が指定等されています。

勝福寺の銅鐘（市指定）は寛永6年（1629）に小田原の鑄物師により鑄造されたものです。小田原は、北条時代には関東鑄物業の中心であり、江戸時代には名工が生まれ、小田原の梵鐘として知られてきており、この銅鐘もその一つです。

刀 銘「相州住康春作」（市指定）は戦国時代の小田原を代表する刀工、康春の作です。小田原には、「小田原相州」と呼ばれる刀剣群を作刀した刀工たちがいました。木象嵌吉祥天像額 油田治雄（木泉）作（市指定）は、伝統的な木工製品であり、箱根細工の一種である木象嵌の名作です。組木細工 山中氏 作（市指定）は、明治時代より山中家の代々が制作した組木です。

未指定の文化財として、短刀 銘「豊州高田莊藤原友行作」、黒漆竜胆大久保藤紋蒔絵重箱などがあります。



総世寺の銅鐘

○書跡・典籍

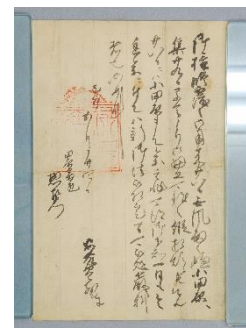
指定等されている文化財はありません。

未指定の文化財として、鉄牛道機書、紙本墨書「鍬鎌ノ辞」などがあります。

○古文書

北条氏による古文書、北条氏と関わりのある旧家や藩士に伝わる古文書、郷村の名主に伝わる古文書、寺院に伝わる古文書など、25件の古文書が市指定文化財となっています。いずれも、中世・近世以降の小田原市における地域の状況を現在に伝える貴重な文化財です。

未指定の文化財として、上杉顕定書状、林家文書などがあります。



北条家虎朱印状

○考古資料

市内各所から出土した縄文時代から奈良時代に至る様々な出土品が指定等されており、先史・古代の人々の暮らしを現在に伝えます。

第2章 小田原市の文化財の概要と特徴

羽根尾貝塚の縄文時代前期出土品（県指定）には、縄文時代前期の関山式・黒浜式土器のほかに、東海地方との交流を示す土器も多数含まれています。中里遺跡の弥生時代中期出土品（県指定）は、弥生時代に特徴的な大陸系磨製石斧が含まれ、鋏や機織具などの木製品は関東では最古級の資料です。

その他、古墳時代前期の千代南原遺跡第Ⅳ地点の1号土坑出土土器・1号土坑出土鍛冶関係遺物（市指定）、奈良時代の千代南原遺跡第Ⅶ地点出土の木簡（市指定）、奈良時代の千代寺院跡出土の瓦（市指定）などが指定されています。

未指定の文化財として、久野2号墳出土品、小船森遺跡出土備蓄銭などがあります。



中里遺跡の弥生時代中期出土品

○歴史資料

二宮尊徳関係資料（県指定）は、桜町（現栃木県真岡市）や小田原での仕法関係をはじめ、関連する資料を含む3,872点が指定されています。

江戸時代の小田原城絵図は、代表的なもの11点が市指定文化財となっています。江戸時代の改修等による小田原城の移り変わりが分かる貴重な文化財です。その他に、小田原城に関連する歴史資料として、小田原城再興碑（宝永二年）（市指定）、小田原城再興天守棟札（宝永二年）（市指定）、小田原城内大日一尊種子板碑（市指定）があります。



小田原城絵図（加藤図）

また、小田原藩主稲葉正則により建立された紹太寺に関連して、延宝7年（1679）に作成された紹太寺の境内絵図（市指定）、紹太寺の建立に参加した人々を供養する長興山開発供養塔（市指定）があります。

未指定の文化財として、梅屋本「箱根七湯之枝折」、隠元隆琦筆「紹太寺」などがあります。

（2）無形文化財

指定等されている文化財はありません。

（3）民俗文化財

①有形の民俗文化財

小田原市において、道祖神は全市域に分布し、全国的にも分布密度が高いといわれています。石祠型、単坐像など形態ごとに制作年代が古いものと保存の良好なもの10基が市指定文化財となっています。同様に、市内には、多様な信仰対象となる石造物が所在しており、

八幡神社の庚申塔群（7基）が市指定文化財となっています。

同じく市指定文化財である玉寶寺の五百羅漢像（526基）は、県内でも珍しい五百羅漢像が揃っているものです。

また、民俗芸能に関するものとして、明治時代に阿波国から訪れた人形芝居の一座が田島村に伝えたとされる田島人形が市指定文化財となっています。

未指定の文化財として、神楽面、大久保忠方奉納絵馬などがあります。



小田原の道祖神（風祭）

②無形の民俗文化財

相模人形芝居下中座（国指定）は三人遣いの人形浄瑠璃で、江戸時代中頃、関西方面から人形遣いの一行が江戸へ旅興行の途中、小竹村に伝えられたのが始まりと言われてい



小田原囃子

ます。小田原囃子は、江戸時代に江戸より城下町に伝わり、現在も市内の各地で伝えられており、白山神社の小田原囃子が県指定文化財となっています。神社の祭礼や道祖神祭りで演奏されています。

鹿島踊は、相模湾西岸で石材産出にかかわった小田原西部から伊豆北川^{ほっかわ}にかけて行われる悪疫退散とともに大漁や海上安全を祈願する民俗芸能です。そのうち寺山神社の鹿島踊は県指定文化財となっています。

その他に、鎌倉時代初期から行われている白髭神社の奉射祭（市指定）、市内で唯一残る曾我別所の寿獅子舞（市指定）、漁民によって歌われてきた山王原大漁木遣唄（市指定）は現在も受け継がれています。

未指定の文化財として、小田原提灯の再認識と普及のために昭和50年代に考案された小田原ちょうちん踊りや、古くから唄い継がれてきた栢山地区の田植歌などがあります。

日本遺産の構成文化財であるういろうは、戦国時代から続く薬商である外郎（ういろう）家により、江戸時代に菓子のういろうが製造販売され、東海道の旅行客等に広まりました。

豊かな自然と東海道の宿場町としての人々の往来、文化の交流を通して、小田原蒲鉾、小田原ひもの、曾我の梅干、和菓子などの名産品、また、小田原漆器や箱根寄木細工、小田原提灯、小田原鋳物などの伝統工芸品が生み出され、その伝統と技術は現在も伝えられています。

（4）記念物

①遺跡

小田原城は、中世から近世にかけての城で、最盛期は城域が約400haに及び、そのうち約30haが小田原城跡として国指定史跡となっています。近世の遺構の下から戦国時代の遺構が確認されており、戦国大名北条氏の文化の一端を窺うことができます。現在、江戸時代の

第2章 小田原市の文化財の概要と特徴

小田原城の姿の復元を目指した史跡整備が実施されています。

石垣山（国史跡）は天正18年（1590）の小田原合戦に際し、豊臣秀吉が小田原城攻略のために築いた城で、「石垣山一夜城」の名でも親しまれています。石垣で築かれた近世城郭で箱根外輪山の一角から派生する標高250m前後の尾根上に立地しています。

江戸城石垣石丁場跡は慶長9年（1604）から寛永13年（1636）にかけて行われた江戸城改修に用いる石垣の石材を砕石、加工した跡です。早川石丁場群関白沢支群は、早川の急峻な斜面上に南北約170m、東西約1,300mと広範に展開しており、このうち254,127㎡が国指定史跡となっています。

箱根外輪山には、源頼朝が平家と戦った石橋山古戦場もあります。戦いに敗れた源頼朝は、箱根外輪山の複雑な地形のおかげで九死に一生を得たといわれています。先陣として戦い、戦死した佐奈田与一義忠と文三家康を祀った与一塚及び文三堂（県指定）がその功績を今に伝えます。

久野諏訪ノ原4号古墳（市指定）、久野1号古墳（市指定）に代表される久野古墳群は、古墳時代の後期に属する高塚式円墳としては県下有数のもので、120基程度の存在が推定されています。周辺には、久野の中世集石墓（市指定）もあります。

小田原の歴史を彩った人物の墓所が数多く史跡指定とされています。北条氏政・氏照の墓所（市指定）、大久保一族の墓所（市指定）、小田原藩主稲葉正則により建立された紹太寺にある稲葉一族の墓所と鉄牛和尚の寿塔（市指定）、鎌倉時代末期の公卿である平成輔の墓所（市指定）、江戸の女歌舞伎として活躍した桐大内蔵の墓所（市指定）があります。

未指定の文化財として、報徳堀、小田原用水（早川上水）、荻窪用水（土木遺産認定）など小田原市の農業の歴史を伝える遺跡や、松永記念館の本土決戦陣地跡、根府川駅の機銃掃射弾痕など第二次世界大戦を伝える遺跡、根府川駅付近の海中に沈む関東大震災で崩落した駅のホームなどの関東大震災の痕跡を伝える遺跡があります。



小田原城跡
（御用米曲輪）

②名勝地

指定等されている文化財はありません。

未指定の文化財として、山縣有朋による古稀庵・皆春荘の庭園などがあります。

③動物・植物・地質鉱物

早川のビランジュ（国指定）は、植物分布上その東北限にある巨木であり、学術上貴重なものです。樹齢は約350年で、江戸時代後期の文化年間、小田原藩主大久保忠真にまつわる逸話もあります。

小田原高等学校の樹叢（県指定）は、数少ない残存照葉樹林であり、市内最大級のヤマモモとヤブツバキがあ



小田原城跡のイヌマキ

ります。その他にも勝福寺の大イチョウ（県指定）、勝福寺・八幡神社の樹叢（県指定）など、寺社にある巨樹や社叢が文化財として指定されています。

また、小田原城跡内において、イヌマキ、巨松、ビャクシンが市指定文化財となっています。

未指定の文化財として、老櫓荘のケヤキなどがあります。

（5）文化的景観

選定されている文化財はありませんが、日本遺産の構成文化財となっているかまぼこ通りは、小田原の名産である蒲鉾をはじめとした老舗の店舗等が点在しています。

また、斜面地のみかん等の畑、曾我の梅林や梅の天日干しの風景、平野に広がる水田などの農業に関連する景観や、漁船が係留し、周辺に店舗等が建ち並ぶ漁港周辺の景観などは、小田原市を特徴づける文化的景観です。

（6）伝統的建造物群

選定されている文化財はありません。

板橋から風祭、入生田にかけての出桁造りが残る旧東海道沿いの町並み、明治20年（1887）に開業した国府津駅周辺の商店等が建ち並ぶ町並みなどは、小田原市を特徴づける伝統的建造物群です。